

特集

1

大人が知らない 子どものネット利用



篠原 嘉一 Shinohara Kaichi
兵庫県情報セキュリティサポーター

NIT情報技術推進ネットワーク代表、兵庫県警察サイバー犯罪・サイバー攻撃対策アドバイザー。子どもたちへのカウンセリング経験から、関係機関を連携し子どものネット被害防止に尽力中。



はじめに

インターネットインフラの普及に伴い、全国のあらゆるエリアでネットを利用する子どもたちが増えてきました。大人のネット利用は、仕事や生活に直結する部分も多く、特定の操作に限られることもありますが、子どもたちのネットの利用方法は日々変わり続けています。それは大人の知らないような情報交換の場であったり、想像をはるかに超える利用方法なのです。学校現場でもネットの利用が盛んに進められています。保護者も学校がある程度指導してくれていると思っているのでしょうか、次元の違う使い方をしていることに、大人が気づかずにいます。交通安全教室のような取り組みを、幼い頃からしていかなければ、現状のネット環境では、将来の生活に必ず影響を及ぼします。

ネットにハマる子どもたち

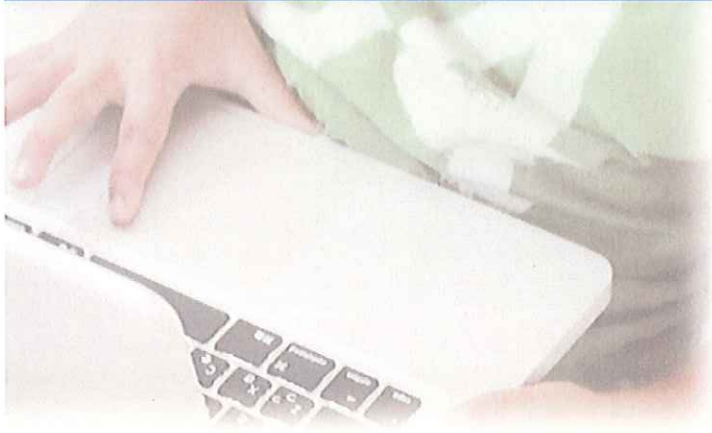
多くの家庭でネットが普及し、街中のWi-Fi利用エリアも増えてきた現在では、さまざまなネット端末で情報交換する子どもたちが増えてきました。特にポータブルゲーム機や携帯音楽プレイヤー（iPodtouch、Android搭載ウォークマンなど）でコメントのやり取りができてしまうので、週末の過ごし方も変わってきています。

友だちとサッカーをして遊ぶにしても、ネット端末で予定を話し合います。固定電話を設置しない家庭も増えているため、子ども同士で連絡を取り合うには何らかのネット端末が必要になっています。これまで、子どものネット利用者が少ない頃はよかったのですが、クラスの中で大半が何らかの端末を持つようになってきたため、何も持っていない子どもは情報過疎に追いやられるのです。「今日は塾が早く終わったからサッカーしようよ」というコメントを友だちグループに送っても、端末のない子には届きません。月曜日に登校して、初めて友だち同士が週末一緒に過ごしたことを聞かされるということは、プライドの高い今の子どもたちにとって、耐え難い苦痛となっているのです。

●なりたい自分になれるネット上の自分

不登校気味の児童が登校しだした理由のひとつに、「学校に行かなければ投稿するコメントが書けない」というケースがあります。これまでの不登校や引きこもりは、外部との接点を断とうとしていましたが、最近のネット世代は、不登校であろうと情報だけは友だちと共有したいと思うようになってきています。いじめによる不登校の生徒は、同じ学校の生徒以外とコンタクトを取りだしました。

それは、ネットの中でならなりたい自分にな



れるからです。実社会で受け入れられなくても、本当の自分を知らないネット上の相手となら何でも話せます。かわいいねと言われたり、スポーツが得意だと言ってもネット上なら本当のことは分かりません。知らない相手だからこそ、本音を話してしまう。いじめられていると悩みを打ち明けられるということもあります。しかし、ネットの向こうには優しい言葉で同性のフリをして近づき、心の中にまで入り込む不審者もいるのです。

●ポータブルゲーム機でチャットする 小学校1年生

ポータブルゲーム機の多くがWi-Fiに対応していることもあり、屋外にいてもネットにつながる環境が整いだしています。子どもたちもゲームの中で、あるいはブラウザを使いチャットをしています。それを利用する子どもたちの年齢が年々下がっているのです。意味も分からずチャットをしている児童も見受けられますが、マナーやモラルを意識できる年齢になる前から操作だけでできてしまうことで、高学年になりトラブルが絶えない状況になってしまいました。日頃の習慣から、つぶやかずにはいられないのです。

●何でも悩みを聞いてくれるネット上の 友だち

見えない相手だからこそ、心を開いて会話をしてしまうとある中学生は言います。小学生の頃からネット上でつながってきた相手を、何年もつき合っている親友だと感じています。たとえば相手が年上であろうと一度心を許してしまう

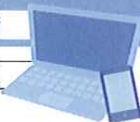
とすべてを話してしまう。「あの人は私を支えてくれる」「私があの子を支えている」と、思い込む。悪意のある事業者や不審者にとってこんないい情報収集の相手はいないわけです。子どもから家庭の情報を聞きだしたり、周りの子どもたちの関心事をリサーチするには打って付けです。悩み相談ルームと称して、カラダの質問を受け付け、児童に裸の画像を送らせるケースも増えています。そもそも、ネットになら何の抵抗もなく裸の写真が送れるのだと話す子どももいます。子どもにとって身近になったカメラが、自分の成長記録のツールとなり、その成長を見てほしいと投稿する女兒も増えています。

その画像が「神待ちサイト」（家出した少女を泊めてくれる男性を探すサイト）や出会い系サイトで利用されてしまいます。出会い系サイトにカラダのパーツ画像をアップするとポイントに換金されるため、出会い系サイト（実際に出会える出会い系サイト）のポイントを画像で稼ぐ不審者がいます。

ネットに潜む危険

●危ない“解約”した端末

保護者のスマートフォン（以下、スマホ）利用が定着し、既に何度か別のスマホに機種交換して使っている人も多いようです。そのため、解約して既に使われていないスマホが数台自宅にあるという家庭も珍しくありません。親は「古い携帯電話」というイメージで見向きもしなくなりますが、解約していてもWi-Fiを使用できることを知らずにいます。このスマホをWi-Fi端末として使用している子どもも意外と多いようです。自分のスマホを持っているのに、古いスマホを怪しいゲーム専用に使っている子どももいました。親が使っていたスマホが放置されている家庭ほど、アドレス帳や写真などがそのまま端末に残っているものです。子どもがどこにアクセスしているか分からないのに、仕事上のデータもそのままになっていることもあります。



● コンビニなどのWi-Fiスポットで 把握される子どもの顔情報

Wi-Fiスポットが街中で増えていますが、ゲーム機やWi-Fiのみに利用している端末は、一度Wi-Fiスポットに接続すると、ゾーン移動できないために、その場で立ち止まりネットをすることになります。無料通話アプリ*1を使って会話をするのならなおのこと動けなくなってしまいます。子どもたちは長時間同じ場所に居続けることになります。そのようすをスマホのカメラで盗撮され、顔で検索すると、その子のブログやプロフィールサイトが探し出せるのです。

Wi-Fiスポットを利用する場合、コンビニなどの駐車場に座り込んで通話していると気づかぬうちに盗撮され個人を特定された声掛けが簡単にできてしまいます。

● ゲーム機のスれ違い通信を利用する不審者

ポータブルゲーム機に付いているスれ違い通信機能*2を利用して、子どもから家庭の情報を聞き出す不審者がいます。スれ違い通信は、ゲーム機を持ち歩くときに知らずに情報交換をしています。コンビニや公園、ショッピングモールでゲーム機を持っているだけで数人のアバター*3が交換されるのです。その中には意図的に子どもに近づく手段としてスれ違い通信を利用している者もいます。ゲームだけでコメントを交わすのならまだいいのですが、家庭のことを聞いてくる相手とゲームをするのは危険です。

子どものネット利用と 新しい決済方法の留意点

子どもたちはネットであらゆる情報を得ています。ゲーム機で検索して調べ物をしているのですから、スマホを持っているのとなんら変わりはありません。サイトの中には課金しなければ利用できないサービスがあることを子どもたちも理解しています。また、支払い方法なども理解していて、コンビニの端末から支払うことが多いようです。課金は数分で反映されるため、

深夜にコンビニに駆け込む子どももいます。逆に親のクレジットカードを利用する子どもは発覚を恐れて少なくなってきています。コンビニにあるチャージカード等の普及も子どもの利用を促しています。ますます親の知らないところで課金されているわけです。

では、そのお金はどこから出ているのでしょうか。オークションで手に入れている子どももいるようですが、最近は、親から「お小遣いの範囲で電話代も払いなさい」と渡されているお金で課金しているケースが多いようです。それでは、通話料を払っていないかというところではなく、携帯を基本料金と315円のサービス料金だけの契約に変更し、浮いたパケット定額料金を課金に充てるのです。保護者はお小遣いの範囲で払わせるのではなく、親の管理で支払う必要があります。お小遣いと通信費は分けて考えなければ、子どもの利用状況が見えなくなってしまいます。

大人も怖い ネットに見る個人情報対策

● SNSでのセキュリティ対策

ソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下、SNS）が定着し、多くの世代が利用するようになりました。アプリによりSNSに登録した人のスマホの電話帳データが運営側に送られ、その関連でその知人にサービス利用の案内が届きます。知人からの案内だと勘違いして登録した人も多いことでしょう。使い始めると、多くの人が出身校や誕生日を登録しているため、それが普通なのだと思います。抵抗もなく個人情報を登録してしまいます。しかし、設定を非公開にしない限り、書かれた情報は誰の目にも入りません。SNSを利用している人は再度、設定を見直してほしいものです。

- ①GPS位置情報 ②個人情報の記載範囲
- ③自己紹介文(趣味趣向から想像できる人物像)
- ④公開範囲の設定



⑤電話帳データ送信の有無

必要のない項目は書かないことが大切です。投稿する内容も十分意識していないと、予想外のことが起きてしまいます。何気なく写した職場内でのスナップショット、そこに写っているモノに会社の内部情報はないでしょうか。ホワイトボードの文字、印刷された文章、商品の在庫のようす、顔写真で検索できますので、注意が必要です。

●スマホアプリに見る個人情報対策

スマホのアプリケーション・プログラム（以下、アプリ）には必ず利用規約が書かれています。その内容に疑問があるならダウンロードしてはいけません。しかし、利用規約は細かな文字であったり、英文で読めない内容もあったりします。クリックする度に（アプリ起動に）位置情報、検索履歴、閲覧履歴、使用環境などを持ち出すと書かれています。電話帳のデータをも持ち出すと書かれているアプリもあります。ダウンロード数が多いから安心なのではなく、一通り利用規約には目を通したいものです。販売日（リリース日）からおおむね3カ月を経過したアプリで、提供先が確認できるものが望ましいでしょう。無料通話アプリであれば、なぜ無料なのかと考えることも大切です。端末にある個人情報は自分の情報だけでなく、家族や友だちの情報でもありますから、慎重な利用が不可欠です。

自分はSNSや無料通話アプリを利用していないから安心だと思っても、ネット上で書き込まれてしまうと消すことができません。プライベートな行動を生徒に投稿されている教職員が増え問題になりだしました。削除しようにも、個人の端末に送信された投稿は追えないのです。履歴の削除ボタンはあるにはありますが、事実上消し去る手段はないのです。これまでの掲示板での誹謗中傷とは違い、削除依頼ができません。携帯電話のメールによる誹謗中傷ならいずれ消えますが、無料通話アプリなら残ったまま

です。噂話が地域で広まっても、無料通話アプリを利用してその生徒とつながっていなければ、確認すらできません。検索で見えない反面、探せないコメントが知人の間で広まってしまうのです。法的な手段を含め、教育現場も対策を練っておく必要があります。

●ポイントサービスと個人情報

最近のポイントサービスは、あらゆる購入履歴などに結び付いています。ポイントがもらえたり、レビューを書くことで値引きがされたりありますが、これは自分の個人情報を換金しているのと同じです。ポイントサービスの多くは、加盟店を増やし、利用できる機会を増やしていますが、これは加盟する側には個人情報と購入者の趣向を共有できるメリットがあるからです。あらゆるところでマーケティングされたデータがもらえるのですから、加盟する側のメリットは大きくなります。消費者にとってもお得なサービスではありますが、引き換えに何を提供しているのかを考える必要があるでしょう。

ポイントカードといえども、スタンプを押してもらっていた時代とは異なり、あらゆる購入履歴と移動情報（来店情報）が蓄積された端末なのだという意識が必要です。

おわりに

ネット利用が低年齢化し、自由に端末を使用している子どもは危険性を意識していません。アクセス履歴などを収集することを目的としたアプリの存在や、悪意のある人物からの声掛けにあわないよう、大人は子どもたちの利用状況を理解して、危険性を伝えていただきたいとします。書き込みが消えず、就職や結婚時に支障が出ることはないよう、地域ぐるみでの見守りをお願いいたします。

- *1 データ通信を通じて通話ができるアプリケーション・プログラム。パケット通信料はかかるものの、通話やメールはし放題。
- *2 すれちがい通信の設定が行われたポータブルゲーム機同士はすれちがったときにお互いに通信ができる。一度設定するとすれちがい通信が作動しているポータブルゲーム機は互いを自動で探知し通信を行う。
- *3 コンピューターネットワーク上の仮想空間において自分の分身として登場するキャラクター。